



GUNBOH

群 萌

第161号 2004年12月28日

発行所 全国化学労働組合総連合

東京都文京区本郷1-28-10

本郷TKビル 4F

TEL 03 (3868) 9663

FAX 03 (3868) 9664

発行責任者 福永 幸治

編集者 望月新太郎

gs03@kagaku-s.jtuc-rengo.jp

化学総連 第27回定期大会

第27回定期大会は9月27日（月）愛知県蒲郡市の『ホテル明山荘』において、役員・代議員・地方連合代表幹事など総勢129名が参加し、開催されました。

各議案は、それぞれ満場一致で承認・可決されました。

高橋副会長の開会の挨拶で始まり、議長団に高田代議員（住友化学労組）、金子代議員（丸善石化労組）の両名が、書記には望月氏（日本板硝子労組）が選出されました。

会長挨拶で福永会長は、後掲のように、化学総連は「化学産業が持続的にそして健全に発展することによって、安心して働ける生活基盤を実現する」ことを基本方針として活動すると述べました。そして、産業政策・業種対策活動、JEC連合との連携、化学・エネルギー関連産別との一層の連携強化、財政問題、企業内グループ労組との連携強化の5点について考えを明らかにしました。

伊藤（俊）副会長より、第1号議案「昭和高分子労働組合の加盟形態変更について」提案され、満場一致で承認され、その後、大塚中央執行委員長より承認への御礼と抱負が述べられました。

富田会長代理より第2号議案「JEC連合との今後の連携の在り方（案）」、白飯副会長より第3号議案「2005・2006年度活動方針（案）」、岡田事務局長より第4号議案「2005年度予算（案）」について提案され、それぞれ満場一致で承認されました。

そして、第5号議案「役員選出の件」について承認され、その後、今大会を以って退任する岡田事務局長と辻事務局次長に感謝状を贈呈し、挨拶を戴きました。

そして、福永会長より退任される役員の方々へ感謝が述べられ、新役員の紹介と新役員を代表しての挨拶が行われました。

最後に伊藤（弘）副会長から閉会の挨拶がなされ、第27回定期大会は盛会裏に終了しました。



第27回定期大会 会長挨拶

化学産業が持続的にそして健全に発展することによって、
安心して働ける生活基盤を実現する。



挨拶を行う 福永会長

第27回定期大会開催にあたり、政策委員会・幹事会を代表してご挨拶申し上げます。

この1年間、友愛と信義を組織の合言葉に、話し合いと合意形成を基本にしながら諸活動を展開してきました。加盟組織の皆さんの積極的な参加に心から感謝申し上げます。

日本経済は2002年以降、復調傾向が続いていますが、4-6月期の国内総生産（GDP）は1.3%増と、市場予想とは裏腹な結果となりました。また、原油価格の高騰や年金保険料引き上げといった悪影響も減速要因として懸念されます。

このような状況下で、化学総連は「化学産業が持続的にそして健全に発展することによって、安心して働ける生活基盤を実現する」ことを基本方針として活動します。この考えをベースに今年度の主要な課題を提起します。

最重要課題は、産業政策・業種対策活動です。とりわけ、環境課題への対応は喫緊のテーマとし

て産業対策委員会で推進していきます。欧州における新たな化学物質規制（REACH）法案については、昨年の定期大会時でも問題点を指摘しましたが、「日化協REACH対応協議会」及び「在欧日系化学企業REACH対応協議会」が設置されるなど、産業界の動きが出てきました。今後は欧州委員会への直接的な働きかけやコンサルタントを介した具体的な取り組みを強めるとの意向です。温室効果ガスの排出量を削減するための議論の必要性について異論はありませんが、環境税については、企業に一方的に負担を課す課税という手法であり、問題点が多すぎます。導入されれば、雇用や労働環境に大きく影響する可能性がありますし、今後とも反対のスタンスで臨んでいきます。

両テーマとも、JEC連合、日化協と必要な共同歩調をとりつつ、具体的なアクションを進めていきます。また、このような産業対策活動を広く加盟組合員に理解していただくための広報活動も見直しを進めます。

二点目は、JEC連合との連携についてです。JEC連合とは一昨年の10月に交わしたブリッジ協定書の趣旨に沿って、産業界種対策活動に特化した取り組みを進め、成果をあげてきています。一方、4月15日に発覚した「JEC連合前会長の収賄事件」は、JEC連合との連携のあり方に疑問を抱かざるを得ない衝撃的な事件と受け止めています。以降、様々な議論を重ねてきた結果、現状のブリッジ関係を維持していくことでまとまりました。その結論の背景には、高い倫理観を醸成させる風土創り、更には再発防止委員会答申の推進等の積極的な行動が伴うことが前提になると申し上げておきます。また、化学部会、JEC総研とは、産業対策活動を更に充実させるための有機的な情報交換を進めていきます。

三点目は、化学・エネルギー関連産別との一層の連携強化についてです。結論から申し上げますと、昨年定期大会で確認した「JEC連合との更なる連携強化」を「化学・エネルギー関連産別との連携強化」に軸足を移すということです。1年間、幹事会を中心にJEC連合との連携強化の可能性を真正面から取り上げ議論してきましたが、過去の運動理念、会費問題等の重い課題もあり、現時点でブリッジ関係を越えた対応は困難との見解に至りました。一方、第3次JEC懇話会でまとめた「化学エネルギー産別の全体結集」の方向性を尊重することや幅広い産業業種対策を進めるためには、化学エネルギー産別が緩やかに結集するような組織体の結成がベターと考えます。

四点目は、財政問題についてです。事務局次長1名減による事務局2名体制、JEC連合への事務所移転、加盟組合による応分の負担努力によって、短期的な財政課題は成果とし顕現されましたが、中長期的に耐えうる財政基盤が確立されているとは言えません。政策実現と財政の安定は表裏一体ですから、今の段階から高い視点での検討が必要になります。来年の定期大会では、具体的な提案が

できるよう準備を進めます。

五点目は、企業内グループ労組との連携強化についてです。既に関連労組協議会のような緩やかな組織を結成し、情報交換や経営施策に対する横の連携を深めている労組もあると思います。連結経営、グループ経営の動きに対応する労働組合側の体制及び連携が益々求められています。グループ内組合員の雇用安定や健全で民主的な労使関係を形成する上で、化学総連加盟組合は重要なポジションにありますし、一定の役割を担っているはずです。個々の事情は尊重しますが、こうした考えを十分に意識した具体的な取り組みをお願いします。化学総連としては、グループ内組合員の幅広い結集を目指して、政策委員会を中心に実態調査から開始していきます。

最後に事務局運営についてです。今年度も事務局2名が新任ということもあり、更に加盟組合の皆さんには具体的な活動を推進する上で、応分の負担をお願いすることになりますが、今まで以上のご理解と積極的な支援を重ねてお願い致します。

化学総連の一員として、責務を全うする

— 昭和高分子労働組合 大塚中央執行委員長 —

組合員344名を代表して、御礼とご挨拶申し上げます。

化学総連正式加盟に対し、ご承認を戴き、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

私たち、昭和高分子労働組合は、1995年昭和電工ユニオンの力添えを戴き、化学総連に準加盟致しました。当初の目的は、労使交渉を有利に進めるための情報収集の手段として考えていましたが、世間の流れが大きく変化する中で、各種活動に参加し、各単組との意見交換や交流を深めることで、情報収集だけではなく、労働組合の在り方から化学産業の行く末まで議論させていただけるように

なりました。私どもの組合活動について、化学総連で得られた知見や経験などを活かしていきたいと考えています。丸9年経ちましたが、皆様と化学総連を背負って立つ決意を固めました。化学総連の一員として、皆様方と共にこの責務を全うしていきたいと考えております。

私たち、昭和高分子労働組合をよろしくお願ひ致します。



挨拶する 大塚委員長

2004年度退任役員並びに2005年度新役員紹介

【2004年度退任役員の方々】（敬称略）

- ◎阿久津 聡
副会長（住友化学労働組合）
- ◎末次 喜美雄
幹事（丸善石油化学労働組合）
- ◎岡田 信一
事務局長（日本ゼオン労働組合）
- ◎辻 昭一郎
事務局次長（丸善石油化学労働組合）



退任挨拶する
岡田 前事務局長



退任挨拶する
辻 前事務局次長

ご苦労様でした!!

【2005年度新役員】（敬称略）

役職	氏名	出身単組
会長	福永 幸治	昭和電工ユニオン
会長代理	富田 英之	積水化学労働組合
副会長	伊藤 弘光	宇部興産労働組合
〃	伊藤 俊次	三井化学労働組合
〃	白飯 文人	大日本インキ連合労働組合
〃	高橋 義光	信越化学労働組合
〃	久保市 廣	旭硝子労働組合
事務局長	上鶴 茂喜	住友化学労働組合
事務局次長	望月 新太郎	日本板硝子労働組合
幹事	廣川 正彦	ダイセル化学労働組合
〃	岡村 好男	住友ベークライト労働組合
〃	榎 潤	カネカ労働組合
〃	渡辺 順一	日本ゼオン労働組合
〃	高須 哲也	三洋化成工業労働組合
〃	野城 健	日本板硝子労働組合
〃*	三瓶 昭彦	チッソ労働組合
〃	上木 達矢	日信化学労働組合
〃	高橋 秋義	J S R労働組合
〃	八尋 孝	三菱樹脂労働組合
〃*	田中 雅喜	東燃化学労働組合
〃	高田 武	住友化学労働組合
〃	金子 和功	丸善石油化学労働組合
〃	大塚 倫史	昭和高分子労働組合

*会計監査を兼ねる



議長団に選任された 高田代議員（住友化学労組）
金子代議員（丸善石化労組）



2005年度新役員による挨拶

2005年度 幹部研修会

- ・ 記念講演「EUにおける新化学品規制案（REACH）への対応」
経済産業省 製造産業局 化学課 機能性化学品室 課長補佐
瀬尾 充氏
- ・ 報告「欧州におけるREACHシステムへの取り組みについて」
化学総連 伊藤（俊）副会長（三井化学労組 中央執行委員長）
- ・ まとめ・閉会 富田産業対策委員長

第27回定期大会の翌日（9月28日）に 2005年度研修会を開催しました。

EUにおける新化学品規制『REACH』への取り組みは、本年度の重点活動として位置付けています。そこで、今回の幹部研修会では、経済産業省 瀬尾 充氏をお招きして、REACHシステムの概要と日本の化学産業に与える影響について、特別講演を行いました。

規制案のポイント、システムの特徴、日本以外の主要各国の動向、現状の問題点と対応、今後の国内動向について、とても分かり易く説明され、REACHに関してより一層の理解が深まりました。

その後、本年6月に実施した欧州海外調査団の団長を務めた伊藤副会長より、EUにおけるREACHシステムへの取り組み等の報告を受けました。

報告の中では、

①EUとEU加盟国との間に温度差があり、これらを解決するにはまだ時間を要すると考えられること。

②日本においては行政・企業・労働者の三位一体でこの問題に取り組んでいく必要性がある。といったことが明らかにされました。

最後に、富田産業対策委員長から、本研修会のまとめが行われました。



記念講演する
経済産業省 瀬尾 充氏



報告をする 伊藤副会長



研修会のまとめをする
富田産業対策委員長

第35回 労使懇談会

・日 時 2004年10月22日
・場 所 中部電力(株)浜岡原子力発電所

- ①基調講演「化学総連の課題」 化学総連 福永会長
- ②浜岡原発の概要について 浜岡原子力総合事務所 広報グループ 広瀬部長
- ③原発施設内の見学

10月22日（金）、静岡県御前崎市の中部電力（株）浜岡原子力発電所内の会議室において、第35回労使懇談会を開催しました。

今回は、福永会長の基調講演の後、労使で浜岡原発の見学を行いました。

基調講演では、福永会長より温暖化対策税、REACHへの対応といった産業政策・業種対策活動、総合労働条件の改善・制度改革への取り組み、企業内グループ労組との連携強化等の化学総連の課題について説明し、理解を求めました。

続いて、浜岡原子力総合事務所広報グループの広瀬喜代士部長より、浜岡原発の概要について説明を受けました。

その後、浜岡原子力館において、発電所の模型を基に原子力発電所の基本的な発電の仕組みを模型とアニメーションで分かり易く説明していただきました。

原子力発電所の見学としては、5号機を見学しましたが、セキュリティの厳重さに非常に驚かされたところです。



浜岡原発の概要を説明する
浜岡原子力総合事務所
広報グループ 広瀬 喜代士部長

浜岡原発の概要について

浜岡原子力発電所は、現在1号機から4号機まであり、合計で361万7千KWの発電能力があります。

来年の商用運転に向けて準備中の5号機は、138万kWの発電能力があり、その合計発電能力は、約500万kWにおよび、中部電力管内最大の発電所となります。



年末社会福祉カンパへの 取り組みについて

ポスターコンクール結果発表

本年も力作24点の応募作品が寄せられました。厳正なる審査の結果、最優秀賞には、日本ゼオン労組高岡支部の宮川義教さんと森めぐみさんの作品に決定いたしました。おめでとうございます。

最優秀賞 宮川 義教さん 森 めぐみさん(日本ゼオン労組)

優秀賞 厚生福祉部 (日本ゼオン労組)

優秀賞 高原 徳雄さん (住友ベークライト労組)

年末社会福祉カンパの取り組みについて

各単組では、年末社会福祉カンパ活動が展開されていることと思いますが、今年度は従来の年末社会福祉カンパ活動に加えて、10月23日に発生した新潟県中越地震のカンパ活動も同時に取り組んでおります。どうぞ今まで以上の皆さんの暖かいご協力をお願い致します。

最優秀賞



宮川 義教さん／森 めぐみさん

優秀賞

2004年 化学総連
年末社会福祉カンパ



高原 徳雄さん

優秀賞



厚生福祉部

義援金活動報告について

地球温暖化が叫ばれる中、海水温度の異常な上昇に伴い、今年の日本列島は例年に無く、数多くの台風の上陸にみまわれました。台風の勢力も次々と気象庁の記録を塗り替えるような勢力の強大なものが襲来しました。その結果、各地で水害等が多発いたしました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

各地で被害の報告を受ける中、化学総連としても以下のように義援金を寄贈いたしました。

2004年 8月以降

1	8月	福井県集中豪雨災害義援金	50万円
2	10月	愛媛県集中豪雨災害義援金	50万円
3	10月	台風21号災害義援金 三重	20万円
4	11月	台風23号災害義援金 京都	50万円
		兵庫	50万円
		岐阜	20万円

スケジュール

2005年 1月5日 連合賀詞交換会・化学業界賀詞交換会

14日～15日 第192回政策委員会、第227回幹事会、幹部研修会

20日 連合中央執行委員会

2月9日 連合集会

15日 第193回政策委員会

17日 連合中央執行委員会